

2021年度 一般社団法人 東金青年会議所
理事長所信

川崎 秀樹

(はじめに)

私は4年前、一般社団法人東金青年会議所メンバーの一員となりました。当時入会間もない私は、JCとは何か、東金青年会議所とは何をしている団体なのかも分からず、言われるがままに活動していたことを思い出します。当時の私を思い起こすとまさか理事長所信を書くことになるなどまったく予想もしていませんでした。しかし、今の私を形成してくれたものも紛れもなく青年会議所であると確信しています。青年会議所は、真剣に向き合っても適当にこなしても、40歳を迎えれば卒業となります。しかし、わかりやすいくらい真剣に限界まで取り組んでいるメンバーと、適当に片手間に取り組んでいるメンバーとでは歴然とした成長の違いが見てわかります。

私は入会当初、先輩方の背中がとても大きく、圧倒された記憶を今でも鮮明に覚えています。今思い起こすとあの大きな背中の意味は、真剣に青年会議所と向き合い成長なされた背中であったのだと感じます。真剣に活動しているからこそ、やっていないメンバーへ叱咤激励をしてくれていたのでしょうか、言った以上自分もやらなければならない状況を作り出し、先輩としての自覚と責任となり成長なされてきたのでしょうか。では今そのような環境を作り出せているのでしょうか。新しいメンバーが期待と魅力を感じ、青年会議所運動に向き合っているのであれば現状の会員数ではないでしょう。今こそ我々現役メンバーが一枚岩となり、先を見据えた活動をしていくべきです。

(コロナウイルスと青年会議所活動)

2020年、世界の流れは大きく変わりました。未知のウイルス、新型コロナウイルスです。このコロナウイルスの影響により東京オリンピックは延期となり緊急事態宣言が発令されました。多くの方が仕事を失い、先の見えない人生となりました。

我々東金青年会議所としましても主管させて頂いた千葉ブロック大会の東金での開催が中止となり、多くの方が集まるような催しは禁止され、今までの当たり前が当たり前ではなくなりました。

今後我々の生活も大きく変わっていくと思います。密を避け、なるべく人には会わず、常に清潔に保つ事が当たり前になります。今までの青年会議所は会議や例会など人を集め活動してきましたが、今後は常に社会の動向を気にしながら活動していかなければならなくなるでしょう。しかし悲観的にばかり考えていても状況は変わりません。このような時こそ我々が力を合わせ地域のために活動し、盛り上げて参りましょう。インターネットを使った会議や例会の導入は遠く離れていても開催でき、今まで参加出来なかったメンバーの参加率アップにも繋がります。今までその場所まで行っていた移動時間も違う活動に使える時間となります。我々東金青年会議所が地域の先駆者となり新しい形を作っていきます。

(会員拡大)

現状、東金青年会議所の会員数は15名と危機的状況にあります。そしてその半数は2021年度卒業生となり、会員がいなければ活動は出来なくなるでしょう。会員拡大こそ緊急かつ迅速に対応していかなければならない問題だと考えます。しかし青年会議所は、役職が人間を育てていく一面もあり、新

しいメンバーがただ増えただけでも問題解決には至りません。新しいメンバーを迎え入れた後、どのようにフォローをし成長をさせていくべきかを考え、現役メンバーが寄り添い共に活動していくべきであると考えます。

我々メンバーがもっと活動を楽しみ、メリハリのある東金青年会議所を作り上げていくことが、会員拡大への第1歩となるでしょう。楽しい場所には人が集まり、辛さや過酷さしかない場所からは人は離れていくことでしょう。楽しさの中にも試練があり、その試練を乗り越えた先には間違いなく成長が待っています。試練を乗り越えた者にしかその景色は見えません。より多くのメンバーにその経験をしてもらえるよう私も邁進して参ります。

会員を増やすには、まずは我々の活動をより周知し、多くの方に東金青年会議所の存在を認知して頂く必要があります。例会、事業に多くの参加者を集うと共に、ホームページやフェイスブックも更新頻度を上げ、ポータルサイトも有効に活用していきます。参加者やオブザーバーに対しアットホームな雰囲気迎え入れ、我々の活動を自信を持って体験して頂き、地域の未来への発展に賛同頂ける同志を増やしていこう。

仲間の成長を共に喜び、仲間の辛さを分かち合える家族のような組織にしていこうじゃありませんか。

(未来を繋ぐ子供たちのための青少年育成事業)

現状世間を揺るがせている新型コロナウイルスの1番の被害者は子供たちであると私は考えます。学校が休校になった影響による学習範囲の遅れにより夏休みは縮小、部活動の大会や修学旅行は中止となり、入学、卒業式は閉鎖的になりました。我々が子供の頃当たり前に行われていた事が、今の子供たちは我慢することを強いられています。そのような状況下で我々も世間の波に乗り青年会議所活動1番の花形でもある青少年育成事業をやらないという選択でいいのでしょうか。私はこのような状況下であるからこそ地域の手本となり、青少年育成事業をやるべきだと考えます。そのためにもまずは、まちの子供たちと真剣に向き合います。大人たちから得る一方的な情報や価値観で考えず子供たちの目線となり、1つの目標に向かい共に汗を流しましょう。

明るい豊かなまちづくりに地域の子供たちの笑顔は欠かす事の出来ないものです。子供たちが未来に対し希望を持ち、郷土愛を育める事業を構築しましょう。子供たちが自分たちの住むまちを愛し、地域に根付いていくことこそが明るい豊かなまちづくりの根源となるでしょう。

コロナウイルスに負けず、今だからこそ出来る青少年育成事業を考え成し遂げましょう。

(組織づくり)

東金青年会議所という組織をメンバーはどれだけ理解をして活動しているのでしょうか。活動している者が中身もわからずやっついては元も子もありません。強固な組織を作るためにもメンバーが東金青年会議所を理解する必要があります。情報を常に共有し、わからない事をわからないままにせず青年会議所活動の流れをスムーズにしていきましょう。無駄な時間を省き、効率よく活動していくことも今後必要になっていく動きとなります。

そして上の役職の人こそ苦勞をしましょう。意見を言うだけなら誰にでも出来ます。言っても変わらないなら次はどうするべきかを考え、現状を変えていかなければ同仕事の繰り返しになります。与えられた役職をしっかりと理解をしながら活動していくことで今後、人を育てる立場になったときにその経

験は生きてくるでしょう。

そのためにも本年度は会員研修をしっかりと行い、知らない事を知らないままにせず1年を通して知識の面でも成長して頂きたいと考えます。知らない事は恥ではなく、知らない事を学ぼうともせず放置してしまうの方が恥ずかしい事です。東金青年会議所のメンバーの数は現状少ないですが、とても知識や経験が豊富なメンバーが多々います。入会浅いメンバーはこの先輩方を頼り、自分の成長の糧にして下さい。メンバー1人ひとりが未来を見据え、自分が何をやる事が東金青年会議所の未来に繋がるのかをしっかりと考え行動して下さい。

東金青年会議所の未来は現役メンバー我々の手に掛かっています。

(地域の魅力の発信)

我々は3市3町と幅広いエリアで活動しています。その大きなエリアの魅力を我々ほど理解し生活しているのでしょうか。地域の魅力を理解し、住民に発信していくことが出来れば地域の経済は少しでも潤うことができ、需要と供給の橋渡しが出来ると考えます。2020年度に作成したポータルサイトをより精度を上げ活用し、東金青年会議所という名をしっかりと周知していきましょう。

多くのスポンサーを集め掲載企業を増やし、今後の東金青年会議所の継続事業として、より精度の高いポータルサイトにしていきたいと思います。

ポータルサイトを通じてメンバーが成長できる場面も多々あると考えます。どのような文章や写真が人を惹きつけるのか、閲覧者が多いサイトと少ないサイトでは何が違うのかなどを追求し実践して参りましょう。今後インターネットによる周知は必ず必要になります。自身の会社にも活かせる知識を青年会議所活動の中から学んで頂きます。

(終わりに)

東金青年会議所は、人数こそ少ないですが個々の能力は高くまさに少数精鋭だというお言葉をよく頂きます。現状本当にそうかといわれると今の東金青年会議所はそうではないでしょう。確かに能力の高いメンバーはいますが、その位置まで若いメンバーを引きあげられていません。人を育てるということはとても難しく永遠のテーマです。能力の高い人は人にやらせるのならば自分でやってしまった方が早いですし効率を考えてしまいます。しかし出来ない子と時間を共有し寄り添い活動することで若い力は芽生えるでしょう。成長は目で見て確認は出来ませんが経験は嘘をつきません。人を成長させられる人材を目指しましょう。

40歳までという限られた時間の中、この仲間たちと出会えた奇跡に感謝し、矢印を自分自身に向け全身全霊で活動しよう。家族、仲間を大切に、東金青年会議所活動を楽しみましょう。笑顔の先には必ずや明るい未来が待っています。